

短報

中国における看護教育の現状と課題

康 鳳英*

概要

中国における高等看護教育は、1983年から再建され、ここ20年間で、従来の単なる中等教育の体制から専門学校（中専）、専科（大専、準学士）、本科（学士）、修士、博士課程というさまざまなレベルの看護教育体制が構築されてきた。こうした体制の中で、教育機関のレベル別の比率、カリキュラムの編成、教育方法、看護教員の資質などさまざまな問題に直面しているのが現状である。2005~2010年衛生部中国看護事業発展概要により、中国における看護教育問題が明確にされ、それに対し、マクロ的な方向で看護教育の改革が推進されている。本論では中国における看護教育の現状と課題を多角的に紹介する。

キーワード 中国 看護教育 現状と課題

1. はじめに

中国では1983年に大学の看護教育制度が再建されて以来、看護教育は、従来の単なる中等教育の体制から専門学校（中専）、専科（大専、準学士）、本科（学士）、修士、博士というさまざまなレベルの看護教育体制が構築されてきた。これにより看護職全体の資質を高めるための基礎が定められた¹⁾。看護教育の改革は、ここ数年、ある程度の成果を遂げたが、社会からの看護人材への期待に十分応えていないと言え、中国の看護教育界は今までになく大きな転機に直面している。本論は、中国における看護教育の歴史的背景、体系、規模、カリキュラム編成、法的規定の内容を含む現状の紹介と直面している課題について述べる。

2. 看護教育の歴史的背景

中国における看護教育の歴史は、看護教育の初期の段階から、教育体系の整備と中断、再整備と中断、そしてさらに再整備という曲折的な過程を経ながら発展してきた。

初期の看護教育体制は、1888年に西洋からの伝道師により、診療所、病院、看護師の養成所が開設され、大都市から看護師教育が開始された。初期の大学の看護教育は、1920年にロックフェラー財団の支援により設立され、4年または5年課程の学士プログラムからスタートした²⁾。

しかし、1937年戦争勃発のため、このような系統的な看護教育は中断された³⁾。

新しい中国政権が誕生した1年後、第一回全国

* 中国山西医科大学第一医院看護部

日中笹川医学研究助成制度第29期研究者

衛生会議で、看護教育は学制2年の中級専門教育に定められ、学士と準学士の教育プログラムが閉鎖された。一方、中等専門学校は急速に発展し、1955年までの5年間で20ヶ所を超えた。しかし、1966年以降の10年間では、看護師教育は不必要であるとされ、多くの看護専門学校が閉鎖された。

その後、1977年には、中等看護教育体制が再建できるようになった。近年、社会と医療技術の進歩にともない、ますます大学卒の看護人材への期待が求められている。こうした社会の要請の中で、緊急かつ重要な課題として、看護職の地位及び看護教育の発展を求めて、1980年に大学教育の専科準学士プログラム、1983年には学士プログラムが再開された⁴⁾。その頃から、大学の看護教育は、発展と改革の推進段階に入ったと考えられる。看護大学の数は年々増え、2003年には255ヶ所となった。さらに1992年から修士課程が開設され、2004年からは博士課程も開設された。

ここ20年間で、中国の看護教育は急速な発展を遂げてきた。しかし、まだ先進国のレベルまで達しているとはいえない。現在の看護教育は、社会のニーズに応じた人材養成の体制がまだ確立しておらず、また、看護師不足など多くの課題がある。

3. 看護教育の現状

3.1 教育体系

中国の看護教育体系は、中等看護専門学校教育、普通高等教育と成人看護教育という三つの領域からなる（図1）。

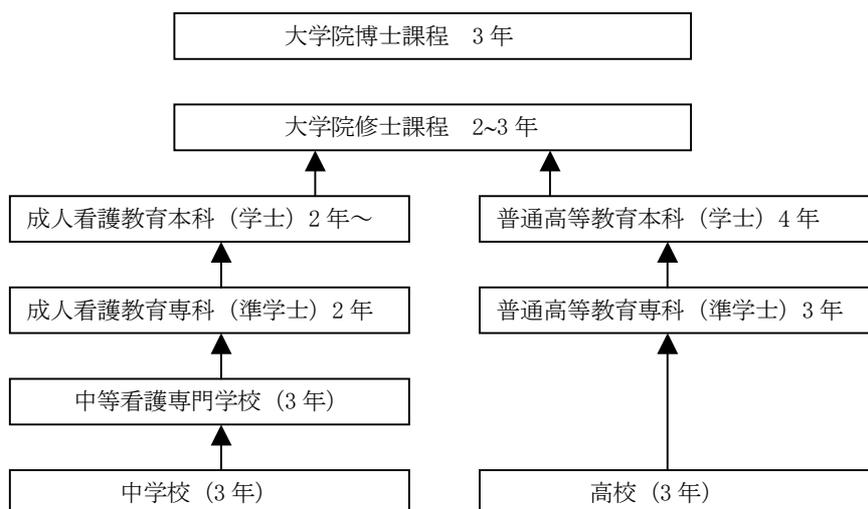


図1 中国の看護教育体系

中等看護専門学校は、中学校卒業以上を入学条件とする3年学制教育制度である。普通高等教育は、専科と本科教育からなり、高等学校卒業以上が入学条件である。専科あるいは本科の入学は全国高校専科・本科成績ラインにより決まる。

成人看護教育は、1987年に始まり、在職看護師を対象に独学教育と在職教育の2種類の教育制度からなっている。就職した看護師は在職教育を受けるチャンスを得難いため、多くの中等看護専門学校を卒業した看護師及び高等教育専科を卒業した看護師は、成人看護教育の独学形式で準学士または学士の大学課程を学び、学歴を強化している。

最近では、現在の中等看護専門学校のプログラムでは不十分との意見もあり、3年のプログラムに1年間の教育を追加すること、および、学校入学の条件を中学卒から高校卒に引き上げることが提案されている⁵⁾。

修士課程は、1992年から始まり2000年以降学生数が増えてきている。博士課程は、2004年から開始され、上海第二軍医大学と中国協和医科大学の2ヶ所だけで開設されている。

3. 2 教育規模

中国における看護師高等教育の規模は、増加の一途を辿っている。2001年には、中等看護専門学校が388ヶ所、高等教育専科(準学士)の開設大学が192ヶ所、本科(学士)の開設大学が91ヶ所、修士課程の開設大学10ヶ所であったが¹⁾⁵⁾、2003年には、高等教育専科が199ヶ所、本科が132ヶ所、修士が13ヶ所に達した²⁾。同時に、免許を得た看護師の人数も年々増えている(表1,表2)。

看護師の高等教育における規模は拡大されているが、教育機関のレベル別にみた比率はバランスが良いとはいえない。また、本科の教育発展は速いが、教育の質は疑問視されている。修士教育の面でも、教育全体の規模と質ともに、さまざまな問題がある⁶⁾。

看護師の教育体系については、準学士と学士の教育を全面的に発展させ、中等看護専門学校の規模を適当な数に削減させると同時に、修士養成制度の促進と博士養成制度の探索という方向で改革方針が定められている¹⁾。

表1 1996-2002年の各教育機関別の入学者数⁵⁾

年	専門学校	準学士	学士	修士	合計
1996	57,010	1,916	476	7	59,409
1997	59,587	2,270	745	8	62,610
1998	64,836	3,546	957	28	69,367
1999	62,866	6,493	2,332	20	71,711
2000	65,125	15,622	4,454	77	85,278
2001	74,978	25,052	6,490	44	106,565
2002	102,397	31,095	7,793	52	141,377

表2 2001-2005年の免許取得看護師人数⁷⁾

2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
1,286,938	1,246,545	1,265,959	1,308,433	1,349,589

3. 3 看護教育カリキュラム編成

高等看護教育つまり大学における看護教育のカリキュラム編成は、80年代に再建されて以来、一般基礎、医学基礎、看護基礎、看護専門、実習からなるのが一般的である。しかし、カリキュラムの編成構造については、各科目の内容に対する議論がなされている。また、看護基礎教育の科目の中に、健康促進、疾病予防、豊かな人格形成の基盤となる人文学、社会学、行動学などに関わる科目が加えられてきたが、理論的な枠組みが明確ではなく、内容も古いものや重複等などがみられ、教科書編成の面でも不十分であるといった問題がある。

また、成人高等教育の中でも、専科と本科の各教育機関での内容が重なる部分が多い。看護実践の中で必要である問題解決能力、コミュニケーション能力、専門発展能力などの面での内容も不足しているという問題もある。

看護の専門としての特徴が十分に強調されておらず、独立的な看護課程体系と人材養成モデルがまだ形成されていないという問題が存在している⁸⁾。

3. 4 看護教育目標及び教育方法

看護教育目標から見ると、多くの大学では、専科は実践型人材を育成し、本科は看護教員と研究者を育成するとしているが、その目標に応じる教育内容と教育方法システムは、まだ形成されていない。また、教育活動の組織には、理論と実践の関連が不足している現象があり、授業方法は、学生中心ではなく、教員が一方的に教授するという注入型の授業スタイルである。さらに、専科、本科、修士の教育機関は、社会教育資源を十分に利用しておらず、地域との連携が不足しているという問題もある。

大学院の教育は、歩き始めたばかりであるが、看護を一つの学科としての位置づけ、修士養成目標と方法、指導者の質の充実という問題はますます注目されている。

国務院学位委員会の学位に関する規定では、看護学は二級学で、看護修士の養成は臨床実践型ではなく、科学研究型に属する。そのため大学院生には研究能力と研究の質が求められ、臨床看護実践が大切であるとされる看護修士の養成計画の中に

において、臨床看護実践と教育実践の内容は縮小せざるを得ない⁹⁾。臨床看護実践への教育養成目標の中では、看護スペシャリストが望まれているが、それに応じる人材養成体系が、まだ形成されていないのが現状である。

大学院修士の研究能力の養成の面でも、指導者の指導能力、研究能力、研究経費などの問題が、大学院生の研究能力の向上を難しくさせているといった現状がある。

3. 5 看護職員の資質

大学教員の学歴は、条件学歴が本科100%、修士80%以上に達している大学がごくわずかである。ほとんどの大学において、看護学は医師により教育され、本科においては、大専卒教員が教育にあっている。また、臨床実践指導は、臨床看護師により行われているが、教育意識が高いとはいえ、教育スキルにも問題があるといわれている。

大学院修士、博士課程の指導者らは、概して二種類の背景をもっている。一つは、長年に渡り臨床看護の仕事に従事し、豊富な臨床経験と高い役職を持っている人である。しかしながら、学歴などの条件の制限により、大学院生の指導者にはなり難い現状がある。もう一つは、80年代後期に大学及び大学院修士課程を卒業した人である。彼らは理論基礎知識に優れ、ディベロップメント的潜在力が期待されているが、臨床経験と研究経験が不足しているのが現実である。

3. 6 看護教育に関する法的規定

看護教育に関する法的規定は、看護師管理方法、教育法に基づいた教員資格条例、および高等教育法である。

1994年4月1日施行された看護師管理方法では、主に看護師免許資格認定制度が施行され、国家免許試験が年一回行われている。看護師は就職資格を取得するために、試験合格証が必要である。看護師就職資格取得後、就職登録の許可があたえられ、就職登録は二年ごとに行われている。登録をしない看護師は、看護職の従事が禁止されている。試験申し込みは、漢方看護と西洋看護の二種類に分けられている。試験の科目は、基礎看護学、内科看護学、外科看護学、産婦人科看護学、小児科看護学の五つ

の領域である。専門学校、専科卒の学生であれば、免許試験に合格すれば看護師就職資格を取得することができる。一方、本科以上を卒業の学生は、卒業1年後に、直接に看護師就職資格を取得することができる。

もう一つの法的規定は、1995年に公布された教育法に基づいた教員資格条例である。これは、教員資格の分類、試験、認定などについて具体的に規定するものである。看護大学の教員として、大学の教員資格を得ることが必要である。つまり、教員資格認定試験に合格しなければならない。

さらに、1999年1月1日に施行された高等教育法がある。ここでは、大学の教員と学生の権利と義務が規定されている。看護大学はこれらの法律に従わなければならない。

4. 看護教育面の課題

2005～2010年衛生部中国衛生事業発展概要により、中国における看護教育領域の中の問題が明確にされ、それに応じてマクロ的な対策方針が定められている。

2010年までに教育体制の調整を促進することになる。さまざまなレベルの看護教育機関の入学定員の割合は、中専（専門学校）は50%、専科（準学士）は30%、本科（学士）以上は20%に達することが目標とされている。

また、看護教育内容については、看護専門の特徴を活かし、看護基礎の課程の中に社会看護学、倫理看護学、人間関係とコミュニケーション、看護美学、看護マナーなど人文内容のカリキュラム編成の比重を増加させることと、専門知識のなかに看護の仕事と関係が密接である公衆衛生学の知識、リハビリテーション、高齢者保健と看護、精神看護などの内容を設置することを指定している。

さらに、看護師の能力の養成には、問題に対する分析能力、解決能力及びコミュニケーション能力、またチームグループの一員として他者との協調能力を重視することを強調している。

こういったマクロ的な対策方針に基づいて、各レベルの看護教育機関に対して、各教育目標に応じるカリキュラム編成構造や、教育方法、教員の養成、病院・地域との連携などそれぞれの領域において解決が迫られている。

看護臨床スペシャリストの養成という課題を解決しなければ、看護そのものの質を向上させることはできないと同時に、看護が科学的な専門職として認められないのではないかと考える。看護研

究は、国家あるいは患者・地域住民のニーズに応えなければ、その意義が問われる。さらに、国家からの看護領域組織と各看護学会、機関などからなる研究課題、研究方向、研究経費、研究情報の連携などの問題の解決に関する研究システムを樹立しなければ、看護の発展は望めないだろう。

これらの課題を解決するには、欧米のモデルを取り入れるだけではなく、教材や教科書も中国の文化にあったものが必要である。また情報システムの導入や分析能力を高めることで国際的交流が可能になることも期待される。

5. 考察

中国における看護教育の歴史は、幾多の曲折を経て、新たな時代を迎えた。看護の学校教育は大学化の傾向がうかがえ、大学院修士・博士課程の看護教育が展開され、看護の専門化、科学的レベルの高まりにより、看護の社会的地位はますます注目されると思われる。20年間の改革を通して、看護教育に関わる法律規定と体制の枠組みが整えられたが、これらの内容を充実することが、これからの改革の課題になる。看護教育の大学化の目的は、単に知的レベルに代表される学歴を高めるためだけではなく、看護対象に対する看護実践の能力と質を高めるためでもある。それゆえ、どのようなレベルの教育であっても、看護実践と結び付けなければならないであろう。先進国の経験を取り入れると同時に、国の看護ニーズに応えることが大切であると考えられる。

6. まとめ

中国における看護教育の現状と課題を振り返り、20年間の看護教育の成果とこれから解決すべき問題を明らかにした。直面している課題は多いが、看護教育領域の改革は進めなければならない。看護教育に関わる一員として、自らの力で努力し、看護教育の改革実践に参加する必要があると考えている。

謝辞

本論の作成においては、石川県立看護大学大学院研究科長の金川克子教授にご指導をいただきました。金川教授をはじめ本大学の教員および大学院生の皆様のご支援に心より深く感謝申し上げます。

引用文献：

- 1) 中華人民共和国衛生部：2005～2010年中国看護事業发展計画綱要.中国医院,9(9),26,2005.
- 2) 王启芬：我国の教育現状への振り返りと展望.現代護理報, 2005年11月1日
- 3) 趙桀剛, 羽山由美子, 青山ヒフミ：中国における看護教育の現状と看護教員の資質向上についての提言.大阪府立大学看護学部紀要,12,(1),123-125,2006.
- 4) 将文慧, 李小妹：我国における高等看護教育が直面している問題と対策.中国高等医学教育,(2),14-17, 2002.
- 5) 松尾恭子：中国における看護教育現状と将来－タイと中国の看護基礎教育－大分県立看護科学大学第6回看護国際フォーラム,Dr. Tassana BoontongとDr. Huaping Liuの講演から.看護科学研究, 6, 20-23, 2005.
- 6) 姜安丽：21世紀護理教育发展现状及我国護理教育面临的挑战和发展策略.解放军護理杂志,21(12),1-3,2004.
- 7) 中華人民共和国衛生部：2005年中国衛生事業发展情况公報, 2006. 4. 25, <http://www.moh.gov.cn/news/html/11872.htm>
- 8) 刘扬：我国高等護理教育的发展及改革方向.現代護理, 8,(3),227, 2002.
- 9) 沈宁, 牛学勝：我国護理学研究生教育亟待解决的几个問題.中華看護教育, 6(2),57-59,2004.

Current status and issues of Nursing Education in China

Kang FengYing

Abstract

Since 1983, higher nursing education is in the process of being restored in China. Over the last 20 years, various levels to the nursing education system have been formed, in place of a previously mere secondary education level. In particular: a Vocational School (mid-level specialization degree); a Professional School (advanced specialization degree); Nursing College (Bachelor's degree); Graduate School (Master's degree, Ph.D.) Various problems have arisen in the present context. For example: ones concerning the percentages at each different level of the educational organization; issues regarding curriculum formulation; choice of teaching methods; professional qualifications required of nursing instructors. These problems of nursing education in China were clearly described in the "Overview of the Development of the Nursing Project in China, 2005-2010," published by the Ministry of Health. The Overview describes the direction taken along which the Reform of Chinese Nursing Education is being carried out. This article is an introduction to the issues involved in reforming Chinese nursing education and describes its current status.

Keywords China, Nursing education, Present situation, Issue